

アカペラでつくる混声合唱 ～中学校2年生の合唱指導における実践～

新潟市立白南中学校

稲村 直輝 (8年度)

従来自分が行ってきた合唱指導は、ピアノやCDによるパート練習や別室での音取りの繰り返して、最後に合わせる方法だった。この方法に問題点を感じていたとき、ハンガリーの音楽教育に出会った。それは、ピアノ、CDを使用しない、まったく真逆の指導で衝撃だった。声と聴覚を大切にした聴き合う合唱づくりである。その手法は多岐にわたるが、中学校の授業で取り入れた実践は、「カノン」、「(伴奏付き楽曲も)無伴奏で歌う」、「アカペラ曲の導入」、「手の上下による音高の視覚化」「移動ド唱法」などである。

これらの実践を通して、「移動ド唱法による相対音感の育成」「アカペラにより他者の声に敏感になる」「自然な発声による澄んだ音色」「指導者が生徒の中に入りながら、個に対応した実技指導」「複数声部が同室・同時に活動しても騒音にならない」「友達とかかわりながら歌う」など、成果が多数みられた。階名唱から歌詞に移ったときに揺らぐ音程感、アカペラ曲の選曲など課題も見られたが、合唱の醍醐味である美しいハーモニーを聴き合って歌う喜びを味わわせたい。